

# モダリティ「わけだ」の用法

## －「はず」との比較から－

村田マルゲティッチ 恵美 (ザグレブ大学)  
emuratam615@hotmail.com

### 1. はじめに

文と先行文脈の関係付けを表す説明のモダリティ「わけ」。その「わけ」の複合述語「わけがない」「わけではない」「わけにはいかない」について再考察を行った。方法としては、先行文献や新聞などを元に、学習者が誤用しやすい類似表現、認識のモダリティ「はず」との比較を通して、類義語の取り扱い、学習者の誤用場面について考察を行った。

考察の背景には、学習者から「どうりで寒いわけだ。窓が開いている」は「はず」で置き換えられるか。「わけ」と「はず」は同じなのか。という質問から始まっている。

### 2. 先行研究

寺村 (1984) は「わけ」を  $P \rightarrow Q$  を使って「わけ」を 3 分類し、横田 (2001) では  $XYZ$  をもちいて「わけ」を 5 分類している。

#### 2-1 寺村 (1984) $P \rightarrow Q$ を用いた 3 分類

寺村は「論理的帰結- $P$  という既定の事実から推論すれば当然  $Q$  になる」「換言- $P$  という既定の時事はある観点からすると  $Q$  という事実になる」「ほのめかし-論理を踏まえた発言であることをほのめかす (話言葉で多用)」と分類した。実際に例文を見てみよう。

(1) この地方がサツマイモの本場であり、その芋畑の真ん中にある女学校なのでこんないたずらな呼びかたが生まれたわけだ。(『二十四の瞳』)

(2) ホテル代は 100 ユーロだから、つまり 730 クーナかかるというわけだ。

(3) 私は学生のことを考えて、毎回漢字テストとしているわけです。

例えば、例文 (1) では、女学校の周りが芋畑であったという既定の事実から、名前の由来を述べた「論理的帰結」。例文 (2) では単価の違いを言換えた「換言用法」が例文 (3) は話者がテストを行っているのは、学生のためで、決して意地悪等で行っているのではなく正当な理由があると意味を含めた「ほのめかし」用法が用いられる。

#### 2-2 横田 (2001) $XYZ$ をもちいた 5 分類

また横田 (2001) は、「わけ」を  $XYZ$  をもちいて用法を 5 分類している。

「帰結用法 1」  $Y \rightarrow Z$

(1) 波がずいぶん高いですね。今日は船が出せないわけですか。

「帰結用法 2」  $Y \rightarrow X$

(2) 波がずいぶん高いですね。台風が近づいているわけですか。

「納得用法」  $Y \rightarrow X \rightarrow Y$

(3) 「山本さん、最近結婚したらしいですよ」

「どうりで最近機嫌がいいわけだ。」

「とらえなおし用法」 Y→Y´

(4) 波がずいぶん荒いですね。海水浴シーズンも終わりというわけですね。

「派生法」

(5) こうして2人は幸せに暮らしたわけです。

(6) 大風が近づいているわけだから、つりは無理だろう。

(7) 私は国史を専門にしているわけですが、私のような文献を扱うものの立場からすれば、もっと史料を大切にすべきではないかと思います。

(8) 4人とも車でくるわけだから、うちの前にずらっと4台路上駐車することになるね。

(横田 2001)

この横田の分類を参考に、3章で「はず」との比較考察を行う。

### 3. 「わけ」の意味と用法

先行研究をもとに、3-1、3-2では『朝日新聞』(2008)での「わけだ」分の用法についてさらなる考察を行い、3-3では2-2の横田説から「はず」との比較を行った。

#### 3-1 実質名詞とは違う「わけ」

(1) 昨日試験を受けなかったわけはなんですか。

(2) 今回、私がNYへ(夫と息子と)一緒に行かなかったことや、息子が「すぐに帰ってくるからね」といったのには実はちょっとしたわけがある。(『朝日新聞』2008年12月5日)

(3) 急な仕事はあったので、学校に来られなかったわけです。

(4) 今回は199回目、新年は200回からのスタートになるわけです。

(『朝日新聞』2008年12月5日)

例文(1)と(2)で表される二つの文章の「わけ」実質名詞であるため、「理由」という言葉で置き換えられるが、例文(3)と(4)で表させる二つの文章の「わけ」は形式名詞であるため、「理由」という言葉で置き換えられないことがわかる。吉川(2003)はこの現象を「文末表現としての「わけだ」は、論理の筋道や理由を表す実質名詞としての「わけ」に「だ」がついたものでなく、「わけだ」ひとまとまりで話してのある態度を表している」と定義し実質名詞とは違う旨述べている。

#### 3-2 全体を見る必要がある「わけ」

(1) 学校に来られなかったわけです。

(2) 1人1説になるわけです。

(3) 急な仕事が入ったので、学校に来られなかったわけです。

(4) 歴史を知らずに遺跡を見ても、古墳はただの土盛にから見えないかもしれません。ぜひ当時を知ることができる文献を読んだ上で、現地へいくことをお勧めします。そうすれば土器や甕棺をみて、当時の様子を思いめぐらすことができます。邪馬台国の存在した場所は諸説あり確定していません。だから1人1説となるわけです。この国のルーツを考えるきっかけが、遺跡にはたくさんあります。(『朝日新聞』2008年11月7日)

例文(1)と(2)の文章では「わけだ」文がさしている意味がわかりにくい。例文(3)や(4)のように「わけだ」文の先行文献や「わけだ」文が含まれる文全体に着目する必要があることがわ

かる。劉（1998）もこの現象を「文は後続より、先行文またはかたまりに関連する」と定義している。

### 3-3 「わけ」と類似表現「はず」との比較

2章でみた横田（2001）5分類を用いて「はず」との言換えの考察を行った。

Y：波が高い X：台風が近づいている Z：今日は船が出せない

「帰結用法1」Y→Z（結果）

(1) 波がずいぶん高いですね。今日は船が出せないわけですか。

(1)´ 波がずいぶん高いですね。今日は船が出せないはずですか。

言換えた表現(1)´は「はず」は高い推論を表す用法があるため、疑問「か」との接続、および結果を表す用法との言換えは成立し難いと考えられる。

「帰結用法2」Y→X（原因・理由<既知>）

(2) 波がずいぶん高いですね。台風が近づいているわけですか。

(2)´ 波がずいぶん高いですね。台風が近づいているはずですか。

例文(2)´は話者は「台風が近づいている」ことは既知の原因理由であることから、高い推論をあらわす「はず」との言換への成立は難しい。

「納得用法」Y→X→Y

納得用法はグループジャマシイ（1998）で「どうりで～わけだ、なるほど～わけだ、それで～わけだ、だから～わけだ」を用い説明されているため、例文(3)をさらにこれに合わせ検証を行う。

(3) 「山本さん、最近結婚したらしいですよ」

「どうりで最近機嫌がいいわけだ。」

(3)´ 「山本さん、最近結婚したらしいですよ」

○「どうりで最近機嫌がいいはずだ。」

○「なるほど最近機嫌がいいはずだ。」

?「それで最近機嫌がいいはずだ。」

?「だから最近機嫌がいいはずだ。」

例文(3)´を見るように、「どうりで～はずだ」「なるほど～はずだ」は言い換えが成立するのに対し、「それで～はずだ」「だから～はずだ」では不自然な文章ができる。

「とらえなおし用法」Y→Y´

(4) 波がずいぶん荒いんですね。海水浴シーズンも終わりというわけですね。

(4)´ 波がずいぶん荒いんですね。海水浴シーズンも終わりというはずですね。

例文(4)´を見るように、捉え直し用法では言い換え用法であるため、高い推測を表す「はず」と置き換えると同じ用法での置き換えでは難しい。

「派生法」

(5) こうして2人は幸せに暮らしたわけです。

(5)´ こうして2人は幸せに暮らしたはずです。

例文(5)では、2人が幸せに暮らしている結果を表しているのに対し、「はず」の「記憶の中の事柄を再確認することによって、その事柄を当然視する用法」『日本語記述研究会』（2003）が用いられているので用法が異なる事がわかる。

(6) 大風が近づいているわけだから、つりは無理だろう。

(6) 「大風が近づいているはずだから、つりは無理だろう。

例文(6)では、既知の原因を述べてから筆者の考えを述べている。これも「記憶の中の事柄を再確認することによって、その事柄を当然視する用法」『日本語記述研究会』(2003)が用いられていると考えられる。両文共に既知の理由であることから、言いかえが可能だと考えられる。

(7) 私は国史を専門にしているわけですが、私のような文献を扱うものの立場からすれば、もっと史料を大切にすべきではないかと思えます。

(7) 「私は国史を専門にしているはずですが、私のような文献を扱うものの立場からすれば、もっと史料を大切にすべきではないかと思えます。

例文(7)では、「はず」文は1人称の現在形では成立しないことがわかる。

(8) 4人とも車でくるわけだから、うちの前にずらっと4台路上駐車することになるね。

(8) 「4人とも車でくるはずだから、うちの前にずらっと4台路上駐車することになるね。

例文(8)では、例文(6)と同じように「記憶の中の事柄を再確認することによって、その事柄を当然視する用法」『日本語記述研究会』(2003)が用いられているので、言いかえが成立すると考えられる。

#### 4. 「わけ」の複合述語

「わけ」の複合述語には、「わけがない」「わけではな」「わけにはいかない」があると言われている。

##### 4-1 「わけがない」の用法

(1) 性格の良い彼女が、そんなひどいことをするわけがない。

(2) これ以上石油が高騰すれば、物価に影響しないわけがない。

「わけがない」の用法は例文(1)のように「論理的に考えて、そういう事実が成立する理由・可能性がないと話者の主張や主観的な判断を強く述べる。」用法。例文(2)のように否定形接続時には、「そうした事実が成立する理由・可能性が高い」という意味になることがある。

##### 4-2 「わけではない」の用法

(1) その激しい声にとびあがり、初めて気が付いたように大吉はまともに母をみつめた。しかし彼の心の目もそれで覚めたわけではなかった。(『二十四の瞳』)

(2) いいわけするわけではないけど、昨日はとても疲れていて誰とも話をする気にはなれなかったんだ。

(3) 日本人ですが、みんながお寿司が好きなわけではありません。

(4) 結婚したくないわけではない。

「わけではない」の用法は例文(1)話者が聞き手に話したことを元に推測されるであろうことを否定する用法。例文(2)前置き用法。例文(3)「みんな」や「全員」などの言葉と結びつき、程度の高さを低める用法。例文(4)否定形接続し中間的な意味をとる用法がある

##### 4-3 「わけにはいかない」の用法

(1) 来週テストがあるから、今週末は遊びに行くわけにはいかない。

(2) 彼女が作った料理だから、食べないわけにはいかない。

「わけにはいかない」の用法は例文(1)のように「一般常識や社会通念から考えて、話者の意志が制限されたり、行うことができない。」という意味が含まれる。」用法が基本である。さらに例文(2)

のように否定形と接続し「話者は行くことを望んでいないが行わざるおえない」用法がある。

## 5. 「わけだ」文の複合述語と「はず」文との比較

「わけだ」文の複合述語のうち「はず」文との言い換え可能な文は「わけがない」である。

(1) 性格の良い彼女が、そんなひどいことをするわけがない。

(1) 性格の良い彼女が、そんなひどいことをするはずがない。

(2) これ以上石油が高騰すれば、物価に影響しないわけがない。

(2) 以上石油が高騰すれば、物価に影響しないはずがない。

例文(1)(2)を「はず」文に置き換えてみた。類義語とも言えそうだが、「わけだ」文が論理展開から論理展開をしているのに対し、「はず」文は「自分の主張へと結びつけるために用いられている」(吉川 2003)で述べられているように、例文(1)「何かの間違いだろう。例文(2)「国を挙げての対策が必要だ。など「はず」文の後論理展開に結びつけられる。

## 6. まとめ

考察の結果「はず」文との置き換えの可能性は「わけだ」文の用法とその前後の言葉で左右されることがわかった。

「わけ」の用法と「はず」との置き換えについての注意点は以下のとおりである。

- ・わけ文は先行文または文のまとまりを見る必要がある。
- ・「はずですか」という疑問文は不自然
- ・「帰結用法」原因が既知である場合「はず」文に置き換えると「わけ」文が持つ意味とは違う意味になり完全には一致しない。

「納得用法」は「それで、だから」は不可能。どうりで、なるほど」は可能

「捉え直し用法」は「はず」文との置き換えは完全には一致しない。

「派生方法」においては、「はず」文では一人称では使えない。

- ・「わけがない」の類義語は「はずがない」だが、「はずがない」は後に話者の考えが展開される。

また、これは現在考察課題の一つであるが、わけだ文使用場面は家族仲間など身近な関係や上下関係のある場面で用いられていることもあるようである。多用すると聞き手を不愉快な気持ちにさせ、ミスコミュニケーションが生じる可能性が考えられる。教師側の役割に使用場面も考慮に入れ学習者に伝えた方が望ましいようだ。

## 7. おわりに

モダリティ「わけだ」文導入時にすべてを導入し説明することの必要性については今後の課題だが、使用場面を考慮することは、学習者の誤用を避ける事ができると考えられる。今後の課題として学生側にこの疑問が生まれた背景、「クロアチア語と日本語におけるモダリティ表現」について課題にしたい。

日本語教育連絡会議では多くの先生からアドバイスを頂いた。頂いたアドバイスを元に現在さらなる「わけだ」文の考察を展開している。末筆になりますが心から感謝申し上げます。

参考文献

- グループジャマシイ編著（1998）『日本語文型辞典』くろしお出版
- 寺村秀雄（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会（2003）『現代日本語文法4』くろしお出版 p207
- 姫野昌子（1993）「日本語教育における「の」の指導」『日本語学』12号 明治書院
- 藤村知子（2000）「説明文における『ワケダ』の使用例とその機能」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』26号
- 益岡隆志（1991）『モダリティの文法』くろしお出版
- 横田淳子（2001）「文末表現「わけだ」の意味と用法」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』27号
- 横田淳子（2002）「文末表現「わけだ」の用法 -はずだ・ことになるとの比較-」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集第28号』
- 吉川武時編（2003）『形式名詞がこれでわかる』ひつじ書房 p123
- 劉 向東（1996）「『わけだ』文に関する一考察」『日本語教育』88号
- 劉 向東（1998）「社説における『はずだ』と『わけだ』の使用状況と機能について」『平成10年度日本語教育学会秋季大会予稿集』
- 宮本輝（1994）『蜚川・泥の河』新潮文庫
- 壺井栄（1989）『二十四の瞳』旺文社
- 『朝日新聞』 2008年9月から12月